

集中豪雨や水害時に長靴は危険!!

雨の日の長靴は足元を水から守り、快適に過ごすための必需品と言えますが、集中豪雨の時や水害時にはむしろ危険な状態を引き起こしてしまう恐れもあります。

長靴は水がしみこみにくい素材を使っているため、長靴の上部から水が浸入したときには内部に水が溜まってしまいます。そうすると、足元は重くなり歩きにくく、時には長靴が脱げてしまう事もありとても危険です。たとえるぶしよりも低い水位の時でも、集中豪雨の場合は一気に水位が上がることもあるため、長靴はオススメできません。

では、水害時にはどのような靴が良いのでしょうか。条件としては「滑りにくく、脱げない靴」になります。具体的には、工事現場などで使われる“安全靴”が理想的です。安全靴の大半は靴底が防滑仕様となっており、かつ、容易に脱げないように紐やマジックテープでしっかりと固定される仕様になっています。また、安全靴はガラスや瓦礫から足先や足裏を守る構造になっているので、足元が見えない水の中でも安全に歩くことができます。水中専用の「ウォーターシューズ(マリンシューズ)」なども良さそうですが、薄手の材質で作られた靴であるため水害時にはオススメできません。

“安全靴”は水害時だけでなく、地震などの災害時にも最適な靴です。最近では「セーフティスニーカー」と呼ばれる、見た目は普通のスニーカーと変わらなく、また重量も軽量化された安全靴も販売されています。普段使いにとまでは言いませんが、1足あれば何かと重宝するのかもしれない。

災害時に意外と見落としがちな“靴”について、避難する際に何を履くのか決めておくの良いかもしれないですね。

